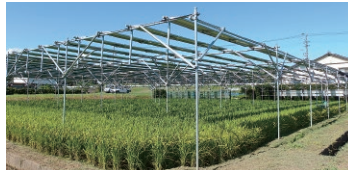




日本共産党  
勝川志保子

**ガイドラインの早急な制定で良好な再生エネルギー導入を**

**Q** ソーラーパネルや小型風力発電などは、適切な規制等を早急に設け、環境や景観などの検討と、地元合意を得た上で、地産地消のエネルギーとして積極的に導入を。



広がりの期待される農地でのソーラーパネル設置 (市内水田でのソーラーシェアリング)

**A** 野立てソーラーパネル設置規制については、良好な土地利用を図るため、国や県の動向を反映させ、今年度中に骨子をまとめ、次年度ガイドラインを公表していく予定です。小型風力発電などについても現在見直しを検討しています。

**市民に寄り添う伴走型の生活困窮者支援を**

**Q** 税金の滞納に伴う差し押さえや国保保険証の取り上げなど滞納処理の前に、窓口で専門職を配置して、生活の困窮者にはワンストップで支援につなげ、伴走型支援をするべきではないか。

**A** 税金の徴収は納税者間との公平性を確保することを第一の目的とし、法令を遵守しています。生活困窮者支援については、職員も知識と経験を蓄積することで、市民が相談しやすい体制、適切な申請受付に心がけています。また、市内5か所の「ふくしあ」で、ワンストップで総合支援をおこなっており、解決できない課題については、担当課へ繋げる仕組みもできています。

**【その他の質問事項】**

子どもたち、保護者のニーズに  
応える放課後子ども教室と放課後児童クラブの在り方について



共に創る掛川  
藤澤恭子

**通学時の荷物の重さと安全対策を**

**Q** 「荷物が重すぎる」と、子どもたちの体への負担が社会問題化し、文部科学省も荷物の重さの対策を求めているが、掛川市としては、どのような対策を検討しているか伺う。

**A** 持ち帰りの荷物が重くなりすぎないように、実技教科の教科書等を学校に置いていくことを認めたり、中学校では何を置いて、何を持ち帰るかにして学習委員会等で検討し、生徒が主体的にルールを決めることで、児童生徒の負担軽減に努めています。今後も児童生徒の登下校に過度な負担にならないよう、文部科学省から出された方針に沿って各校に指導していきます。

**葛のまち掛川としての取り組みを伺う**

**Q** 掛川の葛布の伝統を守るための、今後の展開を伺う。

**A** 現在、葛布の新しい活用方法やデザイン、担い手発掘について多摩美術大学などと、協同研究を行っています。今後、葛布の文化や技術を含めた情報を発信するためのコンテンツも公開する予定です。掛川市の伝統産業としての葛布の周知に力をいれていきます。また、「掛川手織葛布」で国の伝統的工芸品の指定を目指していきたく考えています。



葛を利用した手提げバッグ、草履、帯

**【その他の質問事項】**

原子力防災について